

PAT-NO: JP410117623A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10117623 A

TITLE: TOY FOR ANIMAL

PUBN-DATE: May 12, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
GOUHARA, MISAKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
GOUHARA MISAKO	N/A

APPL-NO: JP08279176

APPL-DATE: October 22, 1996

INT-CL (IPC): A01K029/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a toy for an animal which allows the animal to play through a long period without getting bored and allows a keeper of the animal to enjoy.

SOLUTION: Paw inserting holes 10 in a circular shape or a horizontally long peeping hole 11 are formed at each surface of a cubic main body 3. A playing tool 2 in the shape of a mouse is housed inside the main body 3. The size of the playing tool 2 is made to allow the tool 2 itself to pass through the hole 10. At the time of supplying the toy for an animal 1 like this in front of the eyes of a cat, the cat endlessly continues playing to try to take out the tool 2 within the main body 3.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-117623

(43)公開日 平成10年(1998)5月12日

(51)Int.Cl.*

識別記号

A 01 K 29/00

F I

A 01 K 29/00

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全6頁)

(21)出願番号 特願平8-279176

(71)出願人 596151928

(22)出願日 平成8年(1996)10月22日

郷原 美咲子

岐阜県恵那郡串原村3624番地

(72)発明者 郷原 美咲子

岐阜県恵那郡串原村3624番地

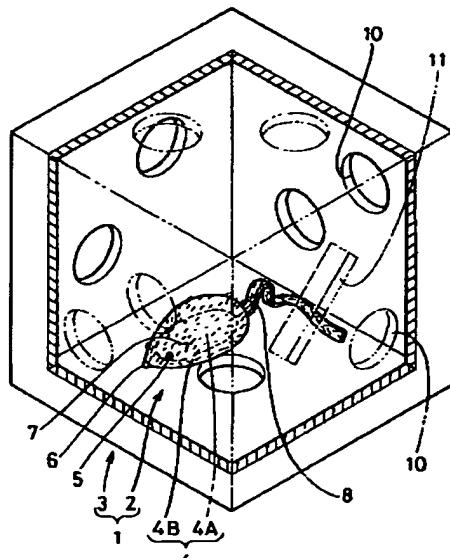
(74)代理人 弁理士 後呂 和男 (外1名)

(54)【発明の名称】 動物用玩具

(57)【要約】

【課題】長期間に渡って動物を飽きさせないで遊ばせておくことができるとともに、その動物の飼い主を楽しませる動物用玩具を提供すること。

【解決手段】立法形状の本体3の各面には、円形状の肢入れ穴10、または横長形状の覗き穴11が設けられている。その本体3の内部には、ネズミの形状をした遊具2が入れられている。遊具2は肢入れ穴10を通過可能な大きさとされている。このような動物用玩具1を猫の眼前に差し出すと、本体3内の遊具2を取り出そうとしていつまでも遊び続ける。



1-動物用玩具

2-遊具(動物用遊具)

3-本体

10-肢入れ穴(開口部)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 中空ボックス状に形成された本体の内部には動物用遊具が収容されるとともに、前記本体の外面には動物が腕を挿入可能とする開口部が形成されていることを特徴とする動物用玩具。

【請求項2】 前記開口部は前記遊具を取り出し可能に形成されていることを特徴とする請求項1に記載の動物用玩具。

【請求項3】 前記遊具の外面には柔軟な毛が植設されていることを特徴とする請求項1または2に記載の動物用玩具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、動物用玩具に関する。

【0002】

【従来の技術】 動物用の玩具としては、例えば実開昭59-164698号に開示された図9に示す箱玩具60があった。この箱玩具60は、底面のない長方形の箱の短辺側で対向する面をアーチ状に切り込んで全体をトンネル形状としたものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この箱玩具60は動物がトンネル内を行き来して遊べるように工夫されたものであるが、単純な構成であるため遊び方に乏しく、動物の興味も長続きしないという欠点があった。本発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、その課題は、長期間に亘って動物を飽きさせないで遊ばせておくことができるとともに、その動物の飼い主を楽しませる動物用玩具を提供するところにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記の課題を解決するための請求項1の発明に係る動物用玩具は、中空ボックス状に形成された本体の内部には動物用遊具が収容されるとともに、本体の外面には動物が腕を挿入可能とする開口部が形成されている点に特徴を有する。請求項2の発明は、請求項1に記載のものにおいて、開口部は遊具を取り出し可能に形成されているところに特徴を有する。請求項3の発明は、請求項1または2に記載のものにおいて、遊具の外面には柔軟な毛が植設されているところに特徴を有する。

【0005】

【発明の作用および効果】 請求項1の発明によれば、本体の内部には動物用の遊具が収容されている。動物がこの遊具に興味を示せば、動物はこの遊具を取り出そうとして開口部より腕を突っ込む。そして、動物は遊具を内部でもてあそぶ。請求項2の発明によれば、動物は遊具を開口部より取り出そうとしては失敗し、この動作を繰り返して遊ぶ。請求項3の発明によれば、柔軟な毛が取り付けられているため、動物に他の体毛を有する動物を

もてあそんでいるような錯覚を与えることができる。

【0006】

【発明の実施の形態】

＜第1実施形態＞次に本発明の第1実施形態について、図1および2を参照しつつ説明する。本発明の動物用玩具1（この実施形態では、主として猫を対象としたものが示されている）は、内部にネズミ様の遊具2を入れた本体3からなっている。遊具2は小さなネズミの外見に類似させたものであり、芯体4Aのほぼ全面に柔軟な毛状体4Bが植設された体部4と、この体部4の後方から突設させた尾部8とから構成されている。体部4の中心にある芯体4Aは、厚手の紙により前方よりも後方が大きくされた略椎円体に形成されている。芯体4Aの径は最も大きなところで2センチメートルとされ、芯体4Aの長さは約5センチメートルとされている。芯体4Aの周囲を包んだ毛状体4Bは、約1センチメートルの柔らかい毛からなり、芯体4Aに接着によって取付けがなされ、それぞれ後方へ向けて生え揃えられている。この毛状体4Bは、白色であるが実際のネズミの態様に合わせてネズミ色や黒色等、適宜選択することができる。体部4のうち、前方側の頭部に相当する位置には左右に一对の眼5と耳7が、また中央部には一つの鼻6が取り付けられている。眼5と鼻6は、赤色のビーズ様のものを芯体に直接接着することにより体部4に固定されている。また、耳7は芯体を構成する紙体よりも薄手の紙片により形成され、眼5や鼻6よりも薄い赤色で着色されている。

【0007】 一方、体部4の後方側には、尾部8が突出している。尾部8は、紙片を細長く形成した芯に、体部

30 4と同様な毛状体を付着させて作成されている。本体3は段ボールにより略立方体状に形成されている。本体3の一辺は1.2センチメートルであり、各々の面には直径が2~3センチメートルの円形状の肢入れ穴10（本発明の開口部に相当する。）が開口している。この肢入れ穴10は本体3の面に一つ開けられる場合と、2つずつ同面の対角線に沿って設けられる場合とがある。この肢入れ穴10は、遊具2の芯体4Aの径よりも大きくなっているため、遊具2は肢入れ穴10を通過して本体3の内外へ移動することができる。また、猫の前肢の径は、雌雄および個体差もあるが、平均的には誕生後6カ月で約2センチメートル、誕生後一年で約3センチメートル程度であるため、この肢入れ穴10を通して前肢を本体3の内部へ挿入することができる。また、本体3のうち一つの面には、覗き穴11が面の一つの対角線に対して垂直方向に設けられている。この覗き穴11の高さは

40 1.5センチメートルで、長さは4.5センチメートルとされている。この覗き穴11の開口幅は、ここから猫の前肢が突っ込めないよう、これよりもやや小さめの寸法に設定されており、またその長さは猫が両眼で本体3の内部を覗きうる程度のものとされている。この覗き

穴11は、猫が内部をのぞき込むのに用いる他、動物用玩具1の美観上の観点からも設けられている。

【0008】次に、上記のように構成された本実施形態の作用効果について説明する。本体3の内部に遊具2を入れた動物用玩具1を、猫の眼前に位置させる。一般に猫は好奇心の強い動物であるから、この動物用玩具1を外部から観察した後、前肢の爪で引っ掛けたり、転がしたりする。そのうちに、覗き穴11から内部を覗き込み、本体3の内部に入れられた遊具2を発見する。この遊具2は猫の好奇心を引きやすいようにネズミ様とされているため、遊具2を認識した猫は非常な興味を示して、本体3の肢入れ穴10から前肢を挿入し、この遊具2を本体3から取りだそうと試みる。ここで肢入れ穴10は対角線上に二つ設けられている面があるが、そのような面に設けられた肢入れ穴10のうち上方のものに前肢を挿入すると、猫がその前肢を下方に降ろす動作に伴って本体3が転がりやすくなっている。また、猫が本体3の内部をのぞき見る際に覗き穴11を使用すると、覗き穴11の開口方向に沿って顔を斜めに傾けるので、そのような動作を見て観察者は可愛いと感じやすい。すなわち、この動物用玩具1は猫だけでなく、観察者も楽しめるようになっている。何度かの試みによって、遊具2は猫によって本体3の外部に取り出されるが、再び遊具2を本体3の内部に入れてやれば、猫は何度でもこのような仕種を繰り返す。なお、本発明者の試行によれば、肢入れ穴10の径を、猫の前肢は挿入できるが、遊具2は本体3内から取り出せない程度に設定しておくと、猫は数度の遊戯によって飽きてしまい、そのような玩具には興味を示さなくなる。このように本実施形態によれば、本体3の内部には遊具2が収容されているため、猫がこの遊具2に興味を示せば、猫は遊具2を取り出そうとして肢入れ穴10より前肢を突っ込む。そして、猫は遊具2を内部でもてあそぶ。

【0009】また、猫は遊具2を肢入れ穴10より取り出そうとしては失敗し、この動作を繰り返して遊ぶ。そして、とうとう遊具2を肢入れ穴10を通って本体3の外部へ取り出すことを学習すると、猫の興味を著しく刺激し、複数回にわたってこのような遊戯を繰り返すことができる。ここで遊具2には、柔軟な毛が取り付けられているため、猫に体毛を有する他の動物をもてあそんでいるような錯覚を与えることができる。特に本実施形態では、遊具2は、猫が興味を示しやすいネズミ様としてあるため、猫にとって非常に魅力的なものとされている。また、猫とネズミという取り合わせは、これらが遊んでいるのを観察する飼い主の感性にも訴えやすいものとなっているため、観察者にとっても親しみやすいものとなる。一方、本体3を段ボールで作成したため、観察者が猫の気を引こうとしてこすったり猫が爪で引っ掛けたり、床面を転がして他部材に衝突したときに掠過音をたてる。このような音は、猫が興味を示しやすいため、

この動物用玩具1が猫のお気に入りのものとなり易い。加えて、本体3は猫が床面を転がせる程度の大きさとなっている。このため、猫が動物用玩具1で遊戯中に、これを横転させることを覚えると、さらに興味深く遊ぶようになる。

【0010】<第2実施形態>次に本発明の第2実施形態について、図3を参照しつつ説明する。なお、本実施形態と第1実施形態とにおいて同一の構成には、同一の符号を付して説明を省略する。本実施形態では、本体20の形態は三角錐状にされている。このような構成としても、第1実施形態と同様の作用効果を奏することができる。

<第3実施形態>次に本発明の第3実施形態について、図4を参照しつつ説明する。なお、本実施形態と第1実施形態とにおいて同一の構成には、同一の符号を付して説明を省略する。本実施形態では、本体25の形態は六角中状にされている。このような構成としても、第1実施形態と同様の作用効果を奏することができる。また、本実施形態では、二つの底面26を軸として回転しやすくなっている。このため、動物用玩具27は、猫にとってさらに興味深いものとなる。

【0011】<第4実施形態>次に本発明の第4実施形態について、図5を参照しつつ説明する。なお、本実施形態と第1実施形態とにおいて同一の構成には、同一の符号を付して説明を省略する。本実施形態では、本体30の形態は円柱状とされている。このような構成としても、第1実施形態と同様の作用効果を奏することができる。また、本実施形態では、本体30は僅かな外力によって横転するような構成となっているため、猫にとって運動量が大きいものとされている。このため、猫のストレス解消の玩具として、好適なものが提供される。

<第5実施形態>次に本発明の第5実施形態について、図6を参照しつつ説明する。なお、本実施形態と第1実施形態とにおいて同一の構成には、同一の符号を付して説明を省略する。本実施形態では、本体35の形態はテトラポット状とされている。このような構成としても、第1実施形態と同様の作用効果を奏することができる。また、本体35に外力を加えると、外力の方向によってはいずれの方向に回転するか予想が付かないため、さらに面白い玩具となる。

<第6実施形態>次に本発明の第6実施形態について、図7を参照しつつ説明する。なお、本実施形態と第1実施形態とにおいて同一の構成には、同一の符号を付して説明を省略する。本実施形態では、本体40の形態はサッカーボール状とされている。このような構成としても、第1実施形態と同様の作用効果を奏することができる。また、本実施形態では、本体40は僅かな外力によって何れの方向にも回転するような構成となっているため、猫にとって運動量が大きいものとされている。このため、猫のストレス解消の玩具として、好適なものが提

供される。さらに、本実施形態を変形させて、ほぼ球状の本体や、ラグビーボール状の本体を提供してもよい。

【0012】<第7実施形態>次に本発明の第7実施形態について、図8を参照しつつ説明する。なお、本実施形態と第1実施形態において同一の構成には、同一の符号を付して説明を省略する。本実施形態においては動物用玩具45は、第1実施形態と同一構成の遊具2を本体46の天井面47の中央から紐体48で吊り下げた構成としてある。本体46は段ボールにより概略は家形状に形成されている。そのうち、略正方形の底面51の四辺のうち、一方の一組の向かい合う辺からは五角形状の側面49を立ち上げ、他方の一組の向かい合う辺からは五角形状の側面49を覆うような側面50が組み付けられている。底面51の一辺は約3センチメートルとされ、五角形状の側面49の高さ、すなわち本体の高さも同等とされている。各々の側面49、50には直径が2~3センチメートルの円形状や、一辺が2~3センチメートルの略正三角形状のじゃらし穴52、および覗き穴11が2~4個設けられている。猫の前肢の径は、雄
雄および個体差もあるが、平均的には誕生後6カ月で約2センチメートル、誕生後一年で約3センチメートル程度であるため、このじゃらし穴52を通して前肢を本体46の外部へ差し出すことができる。また、五角形状の側面49のうち一つには(図示左側)、くぐり穴53が設けられている。このくぐり穴53は直径が1.3センチメートル程度の円形状のもので、この穴を通して猫を本体46の内部空間へ導くことができる。

【0013】次に、上記のように構成された本実施形態の作用効果について説明する。本体46の天井面47に遊具2を吊るした動物用玩具45を、猫の眼前に置く。一般に猫は好奇心の強い動物であるから、この動物用玩具45を外部から観察した後、覗き穴53から内部を覗き込み、本体46の内部に吊るされた遊具2を発見する。この遊具2は猫の好奇心を引きやすいようにネズミ様とされているため、遊具2を認識した猫は非常に興味を示して、くぐり穴53から本体46の内部空間に進入する。すると、猫は遊具2を入手しようとして天井面47方向に飛びついで遊戯をする。ここで、本体46の内部空間には、複数のじゃらし穴52を通して外部からの光が進入している。この光は内部空間に浮遊する塵等に反射して、一種の不思議な空間を形成している。猫はこのような塵等を掴もうとして、空間に前肢を伸ばして遊戯する。また、本体46の外部から、じゃらし穴52を通して猫ジャラシのような遊戯具を挿入すると、内部にいる猫はそのような遊戯具に反応してこれを掴もうとする。さらに、猫を本体46の内部空間に入れたまま、動物用玩具45を回転させることにより、内部の猫は勿論のこと、これを用いて遊ぶ人間にとっても非常に興味深い玩具となるのである。このようにして遊戯した後は、猫はこの動物用玩具45を非常に好むようになり、自ら

本体46に止まり容易に外部に出てこないようになる。

【0014】このように本実施形態によれば、本体46の大きさは猫が内部で遊ぶのに丁度良い大きさとされているため、本体46内に入った猫はあまりの居心地の良さのために、しばし時を忘れてこの動物用玩具45で遊び続ける。また、第1実施形態と同様に遊具2には、柔軟な毛が取り付けられたネズミ様としているため、猫にとってネズミをもてあそんでいるような錯覚を与えることができるため、猫にとって非常に魅力的なものとされている。さらに、本体46を段ボールで作成したため、観察者が猫の気を引こうとしてこすったり猫が爪で引っ掛けたりしたときに擦過音をたてる。このような音は、猫が興味を示しやすいため、この動物用玩具45が猫のお気に入りのものとなり易い。加えて、本体46は猫を内部に入れたまま、床面を転がせる大きさとなっている。このため、猫が動物用玩具45で遊戯中に、これを横転させると、さらに興味深く遊ぶようになる。

【0015】なお、本実施形態については、次のような変形例等が考えられる。

20 (1)くぐり穴53については、図7に想像線で示すように蓋体54を設けてもよい。この蓋体54は、くぐり穴53の全体を覆うような正方形に形成されており、図示はしないが、何度も開閉が可能であるようにマジックテープ等により本体46に取り付けられている。

(2)また、本体46の大きさは、内部に入れる動物の大きさに合わせて任意に構成することができる。このとき、特に猫を対象としている場合には、本体46の内部空間で猫が一回りできる程度の大きさとするのがよい。また、天井面47の高さは、猫が座って頭部がさわる程度とするのがよい。

(3)なお、この動物用玩具45は、猫が内部に入れる大きさとしているため、猫用ハウスとして利用することもできる。

【0016】本発明は前記の各種実施形態に限定されるものではなく、例えば次に記載するようなものも本発明の技術的範囲に含まれる。

①本実施形態では肢入れ穴の形状は円形としてあるが、正三角形・正方形・正五角形等の正多角形や、長方形、だ円形等でもよい。

②遊具としては、ネズミ様の物体に限らず、トリ様のもの、その他でもよい。また、煮干し等のように食用のものを入れておくと、加齢の進んだ猫も本発明の動物用玩具で遊戯する。また、マタタビやキャットニップ等のように猫が好むものを中に入れた布袋を遊具として使用すると、猫に対して刺激的なものとなる。

③また、遊具は本体中には、一つには限らず、数個を入れてもよい。

④覗き穴は、必ずしも設ける必要はない。

⑤段ボールの色としては、明るい暖色系統のもの(例えば、黄色、ピンク、グリーン等)が猫の興味を引き易い

が、何色を使用してもよい。

⑥本体を構成する段ボールとして、マタタビやキャットニップ等のハーブが混入されたものを用いることにより、猫に対して強烈な刺激を与えられるため、本発明の玩具をより魅力的なものとすることができます。

⑦本体を構成する材質としては、段ボール以外にもプラスチック、木片等でもよい。このとき、透明のプラスチックを用いると覗き穴を設けなくても内部の遊具が認識できる。

⑧本実施形態では、動物として猫のみを考慮しているが、例えば内部に柔らかいボールを入れておけば、ヒトのリハビリテーション用器具として用いることも可能である。

⑨本体を折り畳み可能に構成しておくことにより、本発明の玩具の運搬が容易となるため、購入時や旅行等に携帯するのに便利である。

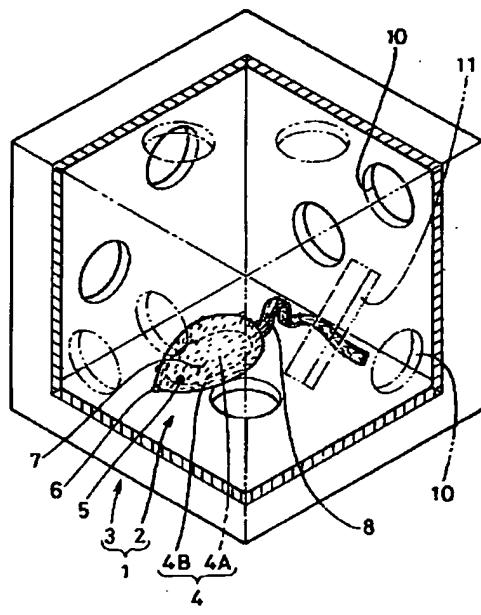
10 【図8】 第7実施形態における動物用玩具の一部破断斜視図

【図9】 従来の動物用玩具の斜視図

【符号の説明】

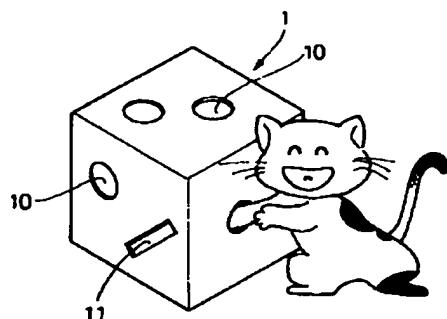
1, 27, 45…動物用玩具、2…遊具（動物用遊具）、3, 20, 25, 30, 35, 40, 46…本体、10, 52…肢入れ穴（開口部）

【図1】

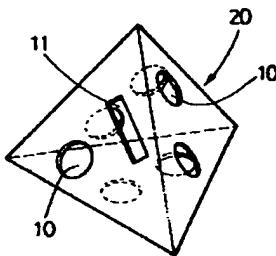


1…動物用玩具
2…遊具（動物用遊具）
3…本体
10…肢入れ穴（開口部）

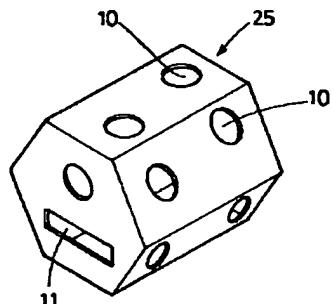
【図2】



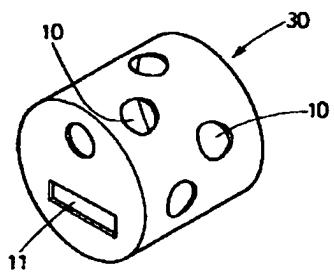
【図3】



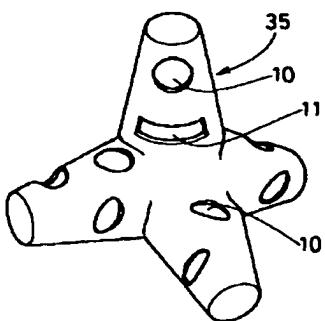
【図4】



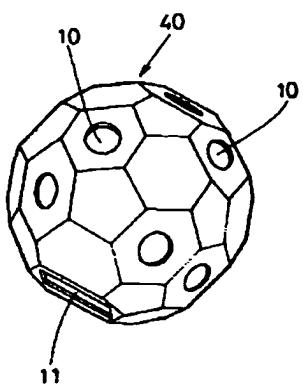
【図5】



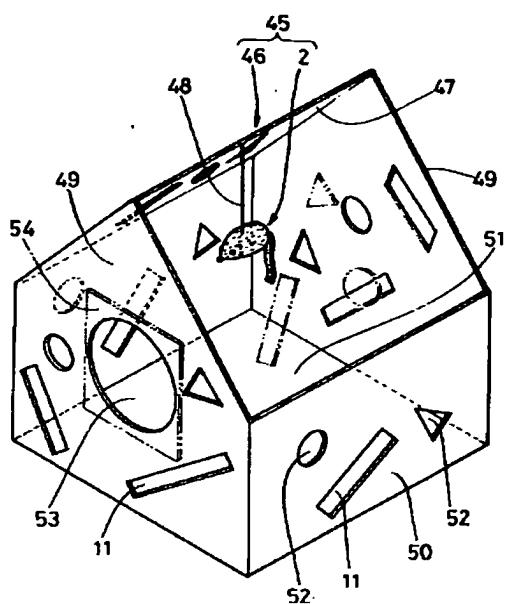
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

